

# 所報

佐賀県教育センター  
平成15年 1月21日 No.24



## ◎ ミネルバ通信 CONTENTS ◎

### 特集「これからの評価を考える」

校内研究 ~我が校の取組~  
大町町立大町小学校



福富町立福富中学校



佐賀再発見シリーズ ~鍋島直正についてのお話~  
インフォメーション ~平成14年度長期研修生の紹介・購入書籍の紹介~

### 巻頭言

「困るといいんです」

研修課長 宮崎 正則



愛読書の一つに『本田宗一郎「一日一話」』（PHP文庫）があります。自動車メーカー・ホンダの創立者、本田宗一郎氏は、自らの体験からじみ出た名言を数多く残していますが、それらを三六五日に割り振ったのが本書です。その名言の一つに、「困るといいんです」という言葉があります。「人間が、いろんな問題にぶつかって、はたと困る、ということは素晴らしいチャンスなのです」（一月一日）。

小さなオートバイ工場から「世界のホンダ」に成長していく過程は、「困ること」の連続であったでしょうし、その「困ること」を一つ一つ、時代の変化（例えば自動車廃棄ガス規制）の中で前向きに解決していくことが、そのままホンダの発展となっていたことは、NHKの人気番組「プロジェクトX」でも紹介されています。

大切なことは、「困る」の意味です。「これまでも、このようにやってきてきて問題はなかった。これからこのやり方でよかるう」という毎日では、「困る」という場面に出会うことは、まずないでしょう。

「児童生徒にもっとよく分かる授業をするには、どうすればよいのか」とか、「子どもたちの心を、本当に理解できているのだろうか」などと自らを省み、その対応に「困る」人へのみ進歩のチャンスが訪れる、と本田さんは言われていると思います。

教育センターは、「困る」先生の味方です。研修講座、研修援助、教育相談等、大いに活用していただき、われわれ所員も先生方と共に「困りたい」と思っています。

## これからの評価を考える

Q 1 「指導と評価の一体化」とは、どんなことか？

A 1 学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されています。すなわち、指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。「指導と評価の一体化」とは、そういう考え方のことです。そのためにも、評価は学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切です。また、児童生徒にとって評価は、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義があることも忘れてはなりません。

Q 2 評価が児童生徒の学習の改善に生かされるようにするためには、どんなことが大事なのか？

A 2 通信簿や面談を通じて、学習の評価を、日常的に児童生徒や保護者に十分説明し、かつ共有していくことが大切です。また、学習の結果としての評価の情報とともに、どのような観点や規準で評価を行うのか、どのような方法で評価を行うのかといった学校としての評価の考え方や方針を、教育活動の計画などとともにもあらかじめ説明することも大切です。

Q 3 児童生徒の成長の状況を総合的に評価するためには、どんなことが必要か？

A 3 第一に、評価を学習や指導の改善に役立たせる観点から、総合的な評価のみではなく、分析的な評価、記述的な評価を工夫すること、  
第二に、評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価を工夫すること、  
第三に、評価の時期としては、学期末や学

年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫すること、

第四に、具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用い、その選択や組合せを工夫すること、  
などが求められます。

Q 4 「指導要録の基本的な性格及び機能」について教えてほしい。

A 4 指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものです。また、指導要録は、指導のための資料としては、学年末に1年間の学習の状況を総括的に評価するものですが、その記録を確かなものにするため、そこに至るまでの日ごろの継続的な評価の充実が重要です。

Q 5 「指導要録改善の基本方針」について教えてほしい。

A 5 第一に、評定を「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」に改めること、  
第二に、「総合的な学習の時間」について、各学校で評価の観点を定めて、文章記述する欄を新設すること、  
第三に、「行動の記録」の項目を見直すこと、  
第四に、児童生徒の成長の状況を総合的にとらえる工夫ができるよう所見欄等を統合すること、  
などがあげられています。

Q 6 指導要録の「情報の開示」について教えてほしい。

A 6 指導要録の本人への開示についても、個人情報保護基本法制の基本的な考え方に基づき、支障を及ぼすおそれがあるとき等を除き開示することとされています。具体的な開示の取扱いについては、各教育委員会等において、条例等に基づき、それぞれの事案に応じて判断することが適当であるとされています。

文部科学省『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）』2000年をまとめたものです。

# 「学ぶ意欲」を育てる社会科学習

～調べる段階から発表する段階における指導の工夫～

所員 松本 博紀

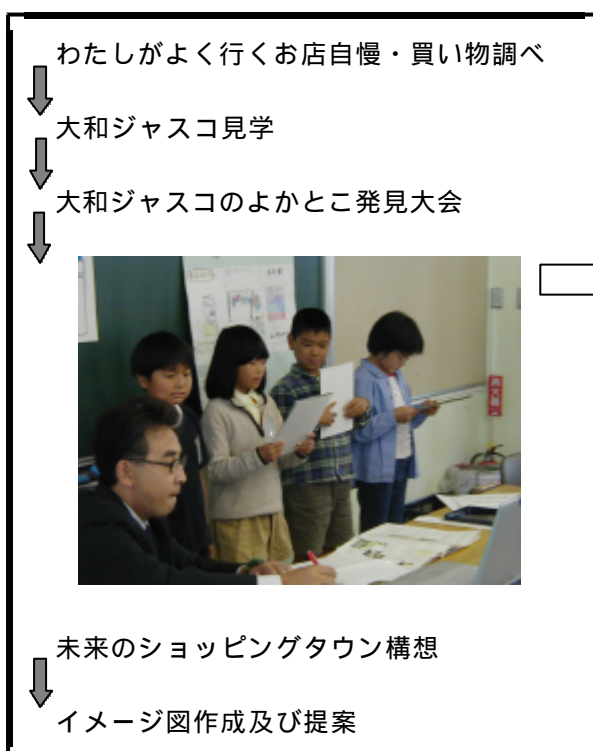


## 1 はじめに

これまでの社会科学習の反省点として、「調べ学習はよくできるが、自分の考えを発表することは苦手である」「友達の発表を聞いて質問することがうまくできない」といった点が挙げられます。授業の中で、学ぶ意欲を育てるために、単に調べた事柄を発表するだけでは充分ではありません。調べたことの中から自分の考えをしっかりともち、自信をもって発表できるように工夫することが大切です。その実践例を紹介します。

## 2 指導の実際

第3学年「スーパーマーケットをたんけんしよう」の単元の流れと学習カード



「わたしたちの暮らしと商店」 学習カード の1  
3年 名前[ ]  
【今日の学習のめあて】【資料活用・表現】  
「ジャスコのよかところ発見大会をしよう」  
【調べる・考える】  
[ はん ]  
<わたしの発見>  
ぼくは(わたしは),  
ジャスコをたんけんして,  
( )つのよいところを見つけました。  
その一つ目は,( )です。  
二つ目は,( )です。  
ぼくは(わたしは), ジャスコをたんけんして,  
( )ということが分かりました。  
これで、ぼくの(わたしの)発表をおわります。

図1 単元の指導計画

図2 学習カード(発表用)

### 【本単元各段階における指導の工夫】

導入段階・・・身近な買い物調べをし、それを視覚的にとらえさせるためにグラフ化させました。

調査段階・・・子どもたちがより進んで学習に取り組めるように、各時間の学習カードを用意しました。今後の社会科学習を見通して、「見学時におけるマナー」「インタビューの仕方」もマニュアル化して指導しました。

発表段階・・・調べたことを基に、自分の考えを自信をもって発表できるように学習カードを用意し(図2)、自分が特に分かったことは何かを考えさせました。

## 3 おわりに

本単元の中で、子どもたちは少しずつ変化を見せました。一番の変化は、自信をもって自分の考えを発表し始めたという点です。マニュアルに沿ってではありますが、店の販売の工夫について生き生きと発表する子どもたちの姿が印象的でした。(図1写真)

今後は、「聞く指導(問い直す)」にも力を入れていく必要があります。そこから、将来的にはディベートや討論といった学習活動へと発展させ、自分の考えを基に、社会的な問題についてより意欲的に話し合えるようにしたいと思います。



# 3年間を見通し，内容の有機的な関連を図った指導 ～食生活と環境問題～

所属 吉木 淑子



## 1 はじめに

技術・家庭科は，実践的・体験的学習を通して，自分の生活に対する関心を深め，家庭生活をよりよくしていこうとする能力と態度を育てることを目標としています。内容においては，「生活の自立を図る」，「生活と結び付けて学習する」，「生活に生かす」，「生活を工夫し創造する」ということに重点が置かれています。また，指導に当たっては，3年間を見通した全体的な指導計画に基づき，各項目に示された指導事項の有機的な関連を図り，総合的に展開できるような適切な題材を設定することが求められています。

そこで，毎日営まれる食生活で起こる生活排水と環境問題を取り上げた指導の例を紹介します。

## 2 学習指導計画

内容の「A生活の自立と衣食住」「B家族と家庭生活」を考慮しながら，3年間の指導計画を次のように立てました。

表1 3年間の指導計画

1 学年 (35時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭と家族関係 B (3)</li> <li>・ 家庭生活と地域とのかわり B (3)</li> <li>・ 家庭生活と消費 B (4)</li> <li>・ 家庭生活と消費 (リフォームをしよう) B (4), A (3)</li> <li>・ 室内の環境整備と住まい方 A (4)</li> <li>・ 衣服の選択と手入れ A (3)</li> </ul>
2 学年	図1を参照
3 学年 (17時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の成長と家族や家庭生活とのかわり B (1)</li> <li>・ 幼児の発達と家族 B (2)</li> <li>・ 幼児の生活と幼児との触れあい B (5)</li> </ul>

内容	指導項目	題材	時間	指導事項		
A	(1) 中学生の栄養と食事	・ 食事の役割	1	ア 食事が果たす役割や、健康と食事のかかわりについて知る。 イ 栄養の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養の特徴について考える。		
		・ 健康と食生活のかかわり	1			
		・ 中学生に必要な栄養	1			
		・ 健康な体をつくる食事	1			
		・ 朝食の大切さ	1			
	(2) 食品の選択と調理	・ 1日のスタートにふさわしい朝食をつくろう(御飯とみそ汁、魚を主菜)	4	ア 食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択できる。 イ 簡単な日常食の調理ができる。 ウ 食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具の管理ができる。		
		・ 生鮮食品について知る	1			
		・ 加工食品と表示	1			
		・ 食品添加物について知る	1			
		・ 調理実習を安全に行う	3			
(5) 食生活の課題と調理の応用	・ これからの食生活	2	ア 自分の食生活に関心をもち、地域の食材を生かした調理を工夫する。			
	・ 郷土料理にチャレンジ	4				
	B	(4) 家庭生活と消費		・ 家庭生活と環境問題	3	イ 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活ができる。 エ 環境や資源に配慮した生活の工夫と実践
				・ 環境に優しい食生活	3	
				・ 食生活と水質汚染	3	
・ 食生活と地域とのかわり			3			

図1 2学年の指導計画

## 3 指導の実際

指導においては，2学年で食を中心とした学習の後に，環境についての学習を計画してみました。短時間ですが，食生活と環境問題について関心を高め生活で実践する態度につなげるために次のことに重点を置きました。

### 身近な題材を設定する

- ・ 自分たちが住んでいる地域の環境問題
- ・ 家庭で行っている工夫
- ・ 飲料水の容器とリサイクル

### 実験を行い確かめる

- ・ 食生活で流す排水の汚染(パックテスト)
- ・ 排水を汚さない洗い方

### 課題解決学習を行う

- ・ 生活で生かせることを見付ける

今日の学習目標	環境に優しい洗い方を見つけよう
予習課題	なるだけ汚れた水を流さない方法はないだろうか
いろいろな洗い方を調べよう。 汚れた水を流さない方法 洗剤をできるだけ使わない方法(量) 洗剤をできるだけ使わない方法(用具) 水をできるだけ少なく使う	あなたの調べるものは
実験結果の報告会 それぞれ調べた実験結果を各班で報告しよう	報告内容
私が見つけた環境に優しい洗い方	
自己評価	環境に優しい洗い方を見つけられたか 見つけた   見つけれなかった
授業で分かったこと	疑問に思ったこと
工夫したこと	気づき
2年 組 号 名前	

図2 ワークシート(3時間目)

授業後の自己評価によって，生徒は授業を振り返り，学習目標の達成度を確認することができますがさらに教師はそれを以後の指導の改善に生かす手立てとしていくことが大切です。

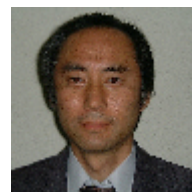
## 4 おわりに

環境にかかわる内容は，衣食住はもちろん生活全般に及んでいます。限られた時間での指導では，このように他の内容と関連を図った指導計画も一方法ではないかと考えます。これからは地域や学校及び生徒の実態を考慮しながら，指導計画を立てていくことが一層必要になると思います。

# 物理 探求活動が登場

～こんなところを評価しよう～

所員 森永 宗男



## 1 はじめに

高校もいよいよ平成15年度から、新課程の内容がスタートします。新入生から順次始まる理科の学習内容は、より一層観察、実験への取組と科学的な自然観の育成が求められています。新しい教科書は、カラフルな図表やイラスト・写真が多く取り入れられ、見て楽しい構成で分かりやすい内容になるよう工夫されています。物理は、観察、実験を基にして学習する内容がかなり多い科目であり、教科書にも「やってみよう」というような項目で、手軽な実験を数多く紹介しています。

## 2 物理 の内容に探究活動が登場

物理 の内容には、物理 Bや物理 でしか出てこなかった探究活動が登場します。新学習指導要領に、物理 の目標は、「……観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる……」とあり、その内容は次のようになっています。

### (1) 電気

- ア 生活の中の電気
- イ 電気に関する探究活動

### (2) 波

- ア いろいろな波
- イ 音と光
- ウ 波に関する探究活動

### (3) 運動とエネルギー

- ア 物体の運動
- イ エネルギー
- ウ 運動とエネルギーに関する探究活動

これまで物理 Aまでしか履修しない学校でも、平成15年度以降は探究活動が学習内容に入ってくる可能性は大きいと思われれます。学習指導要領解説には、「探究活動を行うに当たっては、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の発見など探究の方法を、それぞれの観察、実験を通して習得させる。また、解決すべき課題についての情報の検索、計測、結果の集計・処理などにおいては適宜コンピュータなどを活用するようにする」とあり、物理学的な事物・現象を探究する方法を身に付けさせるよう求めています。また、創意ある報告書を作成させたり、発表を行う機会を設けたりして表現力の育成を図ることも求めています。物理 Aにはなかった探究活動の登場は、これまでの評価の在り方も変えることとなります。

今回の改訂で、ある事象にどれだけ関心や探究心を学習者がもったか、探究しようとする能力や態度が見られたか、また、探究の方法が習得できたかをきちんと評価する必要がでてきま

した。

例えば、(1)電気のアの内容「モーターと発電機」について、教科書に載っているクリップモーターづくりを一人一人に取り組ませる実習を考えます。

まず、教師による説明、資料の配布の後に、学習者は各自材料、工具を選び、モーターづくりに取り掛かります。

このとき、  
コイルの巻き数  
磁石の強さ  
電圧  
の差で回り方がどう変わるか  
などの確認を求めるだけで、これ以上の発展的な活動への指示をしなければ、与えたものだけの確認実験に終わり、学習者の創造性とか工夫とかは見えてきません。

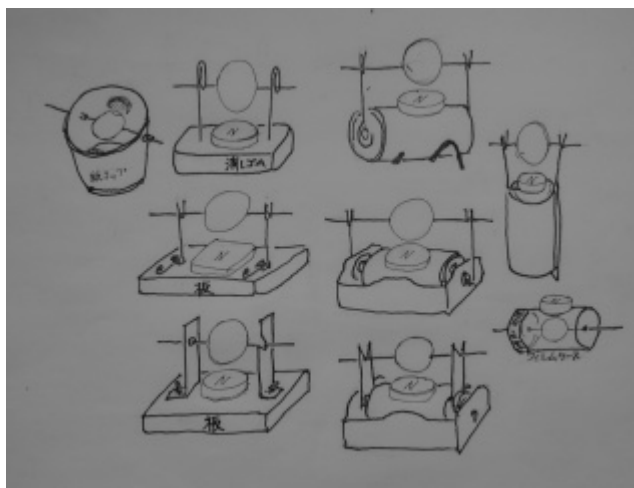


図 いろいろなクリップモーター

そこで、仕組みはそのままに、形を変える工夫はできないか投げ掛けてみましょう。例えば、

- ・もっと大きく、又はもっと小さくするには？
- ・長時間（低電流で）回るようにするには？
- ・回転子の形はこれ以外にないのか？

など、一人一人が考え、工夫しながら個性あるものづくりをするように促します。教師は、この過程で見せる学習者の取り組み方や創造性や工夫の様子などをこれまでの評価に加えて評価します。

## 3 おわりに

上に述べたような評価ができる実習は、限られていて、時間も多く取れません。そこで、どんな実験ができそうか教材研究が必要ですし、観察、実験に親しむことができる雰囲気（どんな材料が理科室にあるか、何人分用意できるかなど）づくりをすることも大切です。

# 校内研究

## ～我が校の取組～

健康に関心を持ち進んで実践する子どもの育成  
～歯と口の健康づくりにライフスキルの活動を生かして～  
大町町立大町小学校 校長 小笠原 玲子

平成13・14年度の2か年にわたり、「歯・口の健康づくり推進校」の指定（文部科学省）を受け、進んで「歯と口」の健康問題について考え、自ら解決し実践していく児童の姿を目指して、学級活動の時間や総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきました。

児童は、自分の健康状態を振り返り、保持増進するための課題をつかみ、科学的に追求する中で、健康を守るために何が必要なのかについて意欲的に考えたり実践したりしていきます。

しかし、知り得た知識を行動に移すには、自分に負けない強い心が必要です。そこでセルフエスティーム（健全な自尊心）の形成を基盤に据え、目標設定、意志決定、ストレス対処、コミュニケーションスキルを高めるライフスキルの活動を取り入れることにより実践力強化を図っています。

< 4年生の実践 > 「発見！探検！歯と口の世界！」  
学活

「おやつのおべ方を考えよう」 おやつとむし歯の関係 ・おやつ調べ ・卵の殻実験	「小白歯をみがこう」 生えかわりの真っ最中、小白歯は大丈夫？ ・私の小白歯 ・チョコクッキーを歯みがきで取り除こう ・歯みがきの大切さ	「あなたの歯ぐきは？」 歯肉を健康に保つためにはどうすればいい？ ・歯はなぜ抜ける？ ・歯肉炎って？ ・自分の歯ぐきは？
--	---	--

総合的な学習

「不思議発見～歯と口の世界 パート1・2～」

今後、「健康づくりは歯と口から」の意識のもと、家庭や地域社会へ積極的に働きかけながら、生涯にわたって健康について考え、進んで実践する子どもの育成に励んでいきたいと思えます。

学力向上を図る指導方法の研究  
～自ら学ぶ意欲を高めるために～  
福富町立福富中学校 校長 大庭 弘毅

平成11・12年度日本体育・学校健康センター指定による「食」に関する研究を行い、生徒たちは人と人との関わりを大切にしながら、調査・学習、発表に意欲的に取り組みました。しかしながら、発表の内容において各グループによる格差が大きく、基礎的・基本的な学力を身に付ける必要性を強く感じました。そこで、「基礎的・基本的な学力の定着」を最重要課題に掲げ、「学力向上を図る指導方法の研究」を行うこととしました。研究部会は、授業研究部会と学習環境部会の2部会に分かれ、具体的にはそれぞれ次のような実践を行いました。

### 授業研究部会

- ア 学習の習熟度や進度、興味・関心などに応じた少人数授業の実践（数学・英語・社会）
- イ 個に応じたきめ細かな指導を行うためのTTの実践（国語・数学・英語・社会・保健体育）
- ウ 生徒の主体性を引き出すためのグループ別指導の導入

### 学習環境部会

- ア 朝読書の取組
- イ 授業者による「学習態度6カ条」の評価
- ウ 毎週月曜日の放課後に行う25分間の補充学習
- エ 重要な項目を確認するための「チェック表」の作成と放課後の「質問教室」の実施
- オ 生活のリズムや学習状況を確認するための「家庭学習がんばり表」の作成と活用
- カ 「学習の目的と学び方」や「予習・復習の進め方」をまとめた学習の手引の作成
- キ 学習に関する校内掲示の見直し

それぞれの部会における取組の成果が表れ、生徒の生き生きとした姿が学校生活や授業の中で見られるようになりました。今後は、家庭との連携をより密にすることで、家庭学習の充実を図りたいと考えています。





# 佐賀再発見シリーズ

## 鍋島直正についてのお話

～幕末・維新期の佐賀を考える～

所員 平山 好成

皆さん、佐賀県は日本の各時代と深い関わりをもつ土地柄であることをご存じですか。例えば、吉野ヶ里遺跡や名護屋城跡、佐賀城鯨の門等です。このような歴史遺産を再評価し、受け継いでいくことは重要なことだと思います。

幕末の佐賀藩の殿様であった鍋島直正は「佐賀の七賢人」の一人です。17歳で藩主となり、歴代の殿様の中でも治茂と並んで名君とされました。

彼の業績の一つに佐賀城本丸の再建があります。藩主となってわずか5年目に佐賀城二の丸が焼失したのです。当時は二の丸が城の中心でした。再建に当たり、本丸跡に新築するのです。その際の図面が「佐賀城御本丸差図」です。狭い空間に建物が密集していることがお分かりになりますか。この密集した状態こそ、彼の性格を表現しているのです。請役所（政治を行う場所）や御座間（藩主の居間）等を隣接させることで、すべてを自分の目の届きやすい所に設置させたのです。藩主の意向が伝わり易いような工夫であったと考えられます。

また、彼は学問好きで、何事に対しても興味を示した人物です。とりわけ、長崎を通じて輸入される文物には強い関心をもち、長崎を重要視しました。佐賀県立図書館に収蔵されている鍋島家文庫の「直正公御年譜地取」や「直正公譜」によれば、参勤交代で国元に帰ると、すぐに長崎の視察に出かけます。長崎の警固は福岡藩と1年交代で行うことが既に寛永年間から決定していました。

彼は警備のやり方について、福岡藩と対立します。福岡藩は長崎湾の内側の防衛を主張しますが、彼は長崎湾の外側（伊王島や神ノ島等）からの防衛力強化を主張します。これは、父斉直が逼塞を受けたフェートン号事件の二の舞を演じたくなかったからではないでしょうか。長崎湾周辺の佐賀藩領を外国から守るために、直正は、幕末の政争に関与するよりも警備に固執します。つまり、長崎を放棄しては「動けなかった」というのが事実であったと思われます。

そして、彼は側近を操り国内外の情報を長崎等を通じて大量に収集しています。大隈や江藤などの言動も掌握していたと考えられます。極論すれば、直正はお釈迦様で、「6賢人」はちょうど孫悟空のような存在であったのかもしれませんが。すべては直正の手中に握られていたと思います。

幕末・維新期の佐賀については『鍋島直正公伝』、『佐賀藩銃砲沿革史』、『佐賀藩海軍史』などの名著はあります。しかし、それらに依拠するのではなく、原史料を調査していくことが大切だと思います。地道な活動が、新しい発見や殿様の素顔に迫ることができるのではないのでしょうか。

### 【歴代佐賀藩主と徳川将軍】

藩祖	直茂	-	勝茂	-	光茂	-	綱茂	-	固茂	-	宗茂	-	宗教									
	-	重茂	-	治茂	-	斉直	-	<u>直正</u>	-	直大												
将軍	1	家康	-	2	秀忠	-	3	家光	-	4	家綱	-	5	綱固	-	6	家宣	-	7	家継		
	-	8	吉宗	-	9	家重	-	10	家治	-	11	家斉	-	12	家慶	-	13	家定	-	14	家茂	
	-	15	慶喜																			

\* は将軍の名の一字をもらっている。

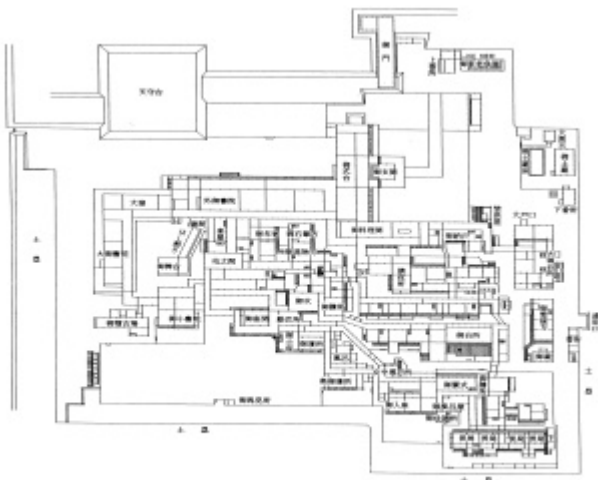


Fig. 4 佐賀城御本丸差図 (市1/1,000)

佐賀城御本丸差図

(佐賀市文化財調査報告書第76集より引用)



鍋島直正像

(佐賀県立博物館蔵)

# インフォメーション



## 平成14年度長期研修生の紹介

今年度は、下の表に示す先生方が、各研究領域で教育実践上の諸問題について研究を進めています。

氏名	所属校	研究領域	研究主題
西川 哲也	千代田中 小	国語	伝え合う力をはぐくむ音声言語指導の研究
羽田野 修	大川 小	社会	社会的実践力をもつ子どもの育成を目指した社会科学習の指導方法に関する研究
中山 浩政	平原 小	算数	豊かな図形感覚を養う算数科学習指導方法の研究
山崎 伸二	二里 小	理科	身近な自然事象に主体的にかかわる児童を育てる理科学習指導方法の研究
小川 康夫	明倫 小	理科	他者とかかわり合い自己の見方や考え方を見つめ直す力を育てる理科学習指導方法の研究
中村 佳代	桜岡 小	道徳	思いやりの心をもち、共に生きる子どもを育てる道徳学習
荒木 憲一	中川副 小	特別活動	適切な仲間関係をつくる学級活動における支援の在り方に関する研究
田辺 聖子	伊岐佐 小	特別活動	他と協力して生活しようとする態度を育てる異年齢集団活動の研究
深草 光明	春日北 小	生徒指導	人間関係能力の育成のために必要な教師の支援の在り方について
中村 元昭	北方 小	教育相談	子どものより良い人間関係を育てるための構成的グループ・エンカウンターにおける評価の工夫
副島 千鶴	春日 小	特殊教育	身体の動きを育てる授業」において主体的な活動を促す指導方法の研究
副島 泰臣	若楠 小	総合的な学習の時間	地域とかかわる力を育てる総合的な学習の時間の研究
松尾 明太	大坪 小	総合的な学習の時間	子ども一人一人が主体的に学びを深める総合的な学習の評価の研究
牟田 美弥子	千代田中	数学	数学の基礎・基本を育成する学習指導方法の改善に関する研究
北原 成之	山代中	数学	基礎的・基本的な内容の定着を図り、学習意欲を高める数学科指導方法の研究
福田 真一	東部中	理科	身近な地域の自然を活用した科学的な見方や考え方を養う理科教材の開発
西村 茂樹	三根中	道徳	体験活動を生かし心を育てる道徳の時間の指導の工夫
中島 達也	神崎中	進路指導	自らの生き方を考える力をはぐくむ進路指導の研究
西澤 有美子	打上中	教育相談	教師と生徒 生徒同士のより良い人間関係を育てる支援の在り方の研究
堀田 知章	三養基高	国語	母国語としての「日本語」を認識させる国語科教育の研究と教材開発
森永 順治	小城高	理科	知的好奇心を喚起し問題解決能力を養う個別化実験教材の開発
山口 義民	多久高	英語	英語の実践的コミュニケーション能力を育成するための指導と評価に関する研究
白川 修一郎	牛津高	商業	新科目「文書デザイン」における教材開発
松永 順子	中原養護	自立活動	重複障害児の主体的なコミュニケーションを目指した補助教材についての研究
樋口 千代美	伊万里養護	領域・教科を合わせた指導	「できる状況づくり」を取り入れた生活単元学習に関する研究

## 購入図書の紹介



教育センターでは、高等学校における新教科「情報」の開設にともなう書籍や、評価に関する書籍などを、今年度購入しました。その一部を紹介します。また、VTRやエール・ネットの集録テープも増やしています。一人5冊まで2週間以内で貸出しを行っていますので、ぜひ御活用ください。

英語教師のための新しい評価法	松沢 伸二 著
新指導要録対応 新しい評価の実際 ~	佐野 金吾 小島 宏 編著
総合的な学習」評価のテクニックとプラン	奈須 正裕 著
高等学校「総合的な学習」の運営と実践事例	工藤 文三 編著
普通教科「情報」展開事例集	情報教育指導研究会 他